

---

# 卒業。

三亜野 雪子

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

卒業。

### 【Nコード】

N8008D

### 【作者名】

三亜野 雪子

### 【あらすじ】

高校三年間の想いをつづった詩のようなものです。

子供でも、

大人でもないこの日々。

澄んだ空気の中で私の息だけが白くなる。

寒い、寒いこの季節。

私は今日、もう何回かしか着ない制服に身を包んでいた。

自転車に乗れば、吹き付ける風が私の身体を凍えさせる。

電車に乗れば、通勤の人や学生が携帯や本を読んで時間を浪費する。

歩けば、通り過ぎる車や人が邪魔に思う。

無情に過ぎていくこの時間。

そう思うようになったのはいつからだろう？

「久しぶりい」

「二週間会ってなかったもんねえ！学校ないと本当話すこと溜まっちゃってさあ」

「あはは、わかるう」

友達との会話。

先生の顔。

見慣れたこの空間。

毎日続くと思ったこの時間。

だけど、それがもうすぐ終わる。

勉強なんて好きじゃない。

やっぱり友達と遊んで、はしゃいで、笑っているのが一番楽しい。

だけど…。

学校なんて好きじゃない。

そう思ってたのに。

「後この制服も一回しか着れなくなるんだね」

しんみりと友達が言った。

三年間、ずっと着てきた制服。

着過ぎてくしゃくしゃになったスカート。

着崩してよれよれになったブレザー。

だけど、皆それをそれぞれクリーニングに出して、見栄えをマシにしている。

明日、私達はこの学校を卒業する。

いつからだろう。

淋しいと思うようになったのは。

高校生ってあつという間だ。

誰かが言ったのを覚える。

一年生が終わったその時、そんなこと微塵も思わなかった。

勉強も大変で、部活も辛くて、本当に一日が長く感じた。

だけど、二年に上がればその気持ちに変化が訪れる。

新しい教科。

学校行事。

部活の試合。

修学旅行。

友達と一生懸命やるそれらは全てが楽しくて、全てがあつという間だった。

『青春』って何だろう？

高校生活はもう、味わえない。

そう思うとその言葉を深く考えてしまう。

何もかもそれは卒業が近いから…。

「じゃあ、ばいばい」

皆と別れて一人で帰る道。

電車の中で過ぎ去る風景を見つめる。

家に帰って自分の部屋に入るとシンとした空間。

その場所で、

沸き起こる感情。

三年生になってからは本当に毎日が楽しくて。

でもその代わりに受験や進路のことを考えなきゃいけなかった。

忙しくて、だけど皆と遊びたくて、暇のない日々を過ごしてた。

夏休みは本当に頑張って皆と思い出を作った。

体育祭、記念祭といつもなら適当にやる行事も、熱くなる。

しきりにカメラで写真を撮る。

笑った顔。

ふざけた顔。

照れた顔。

驚いた顔。

たくさん…。

「卒業証書、授与」

私達は大人でも子供でもないこの時間の中、勉強と誘惑の中で葛藤しながら生きてきた。

それはほとんどの人達が通る道。

だけど、その時間も今日で終わり。

それは誰にも必ず訪れる終わりの時間。

制服を着れる最後の日。

自分の足で壇上にかかる。

三年間通い続けたこの学校。

その証明をしてくれるただの紙切れ。

だけど、私達にとってはとても価値のある紙。

それを受け取って、今卒業する。

名残惜しくアルバムや文集を皆で見で、言葉を書いて。

時間が過ぎていることを頑張って誤魔化しながらも、一日を過ごす。

でも、いつかは気付かなきゃいけない。

先に進むために。

いつかは思い出さなきゃいけない。

卒業したことを。

名残惜しくもばいばいといって、私達は別れる。

一人、一人、建物の陰で消えていく。

淋しい。

哀しい。

もう、会いたくて堪らない。

ねえ、今度はいつ会える？

ねえ、今度はいつ話せる？

もう、学校という会う機会は失って、

もう、学校という居場所は無くなって、

もう…。

私達は学校で知り合った。

私達は学校で仲良くなった。

私達は学校で遊ぶ約束をした。

私達は学校でいっぱい話をした。

その『学校』の居場所を失った。

生徒ではなくなった。

卒業なんてしなくなかった。

勉強も、

友達も、

先生も、

部活も、

全部ね、

好きだったの。

ねえ、また高校生に戻りたい。

それはわがままかな？

涙が、零れる。

卒業式は本当にあっけなくて、

泣く暇は無かった。

終わったと、

もう会えないってしんみり考えると、

溢れ出すそれ。

ねえ、淋しいよ。

馬鹿な発言が聞けないのも、

天然な行動が見れないのも、

テストの話が出来ないのも、

テレビの話が出来ないのも、

皆に、会えないのも。

淋しいよ。

だけど、昔に戻れないから思い出は価値があるんだよね？

だから、大丈夫。

わかってるから。

言葉にしては言わないよ。

その代わりに、文字にして伝えるね。

ありがとう。

この三年間私にかけがえの無い思い出をくれて。

私に勉強を教えてくれて。

私に人生を教<sup>みち</sup>えてくれて。

私と時を過<sup>すご</sup>してくれて。

大好きだよ。

皆、

みんな、

大好きだよ。

友達も

先生も

学校も

全部。

だから、忘れないで。

この三年間を。

私のことを。

それぞれ違う道に進むけど。

またいつか会えることを信じて私は頑張るから。

今、泣いた分だけ頑張るから。

2008・3・1

私達は卒業した。

大人でも子供でもない限られた時間を。

青春時代を。

青い春。

まだ幼い、小さな始まり。

ほろ苦い、思い出。

淡い、儚い花びらは、

静かに散って、

力強い青い葉を生やす。

さあ、歩こう。

この三年間を支えにして。

新たな道へ。

（後書き）

私の気持ちを中心にして書いてみました。  
共感してくれた方は是非お声をかけてください。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8008d/>

---

卒業。

2010年10月11日00時30分発行